

福山での集中講義

昨年の9月初旬、広島県の福山市立女子短期大学で集中講義をした。すぐにレポートを書くつもりだったが、こんなに遅くなってしまった。講義を受けた学生の皆さんに申し訳なく思っている。

写真は福山駅の前に位置する福山城である。福山は初めてであったが、なかなか良い街である。福山といえば、やはり鞆の浦だ。風光明媚な瀬戸内の名所であり、その保全をめぐる揺れ動いており、前から訪ねてみたかった。



この集中講義は、安川悦子学長からの誘いによるものである。長年にわたる「付き合い」であり、断ることもできず、3日間という強行日程で出かけることにした。朝1番の新幹線に乗り、9時30分には講義を開始できた。もっと遠いというイメージであったが、福山は広島県でも岡山県寄りのところにあり、早く着くことができた。



さて肝心の講義であるが、1年の学生に日本の経済や地域のことなどを資料やビデオを使って、なるべく具体的な事例をとりあげて話した。久しぶりの短大生への講義であり、最初はすこし戸惑ったが、すぐにいつもの「調子」が出てきた。50名弱の学生であり、長時間の講義であつたが、熱心に聴いてくれた。写真は最後の試験時に、学生の了解を得て撮ったものだ。講義の感想として、「わかりやすかった」「よく理解できた」などとあり、内心ほっとしている。美味しい魚にもつられて、今年もまた福山に行ってみようと思う。



(1月24日 記)